

北浦広報

第70号

発行所 北浦村役場
北浦村大字山田
発行人
北浦村長 高柳庄次郎

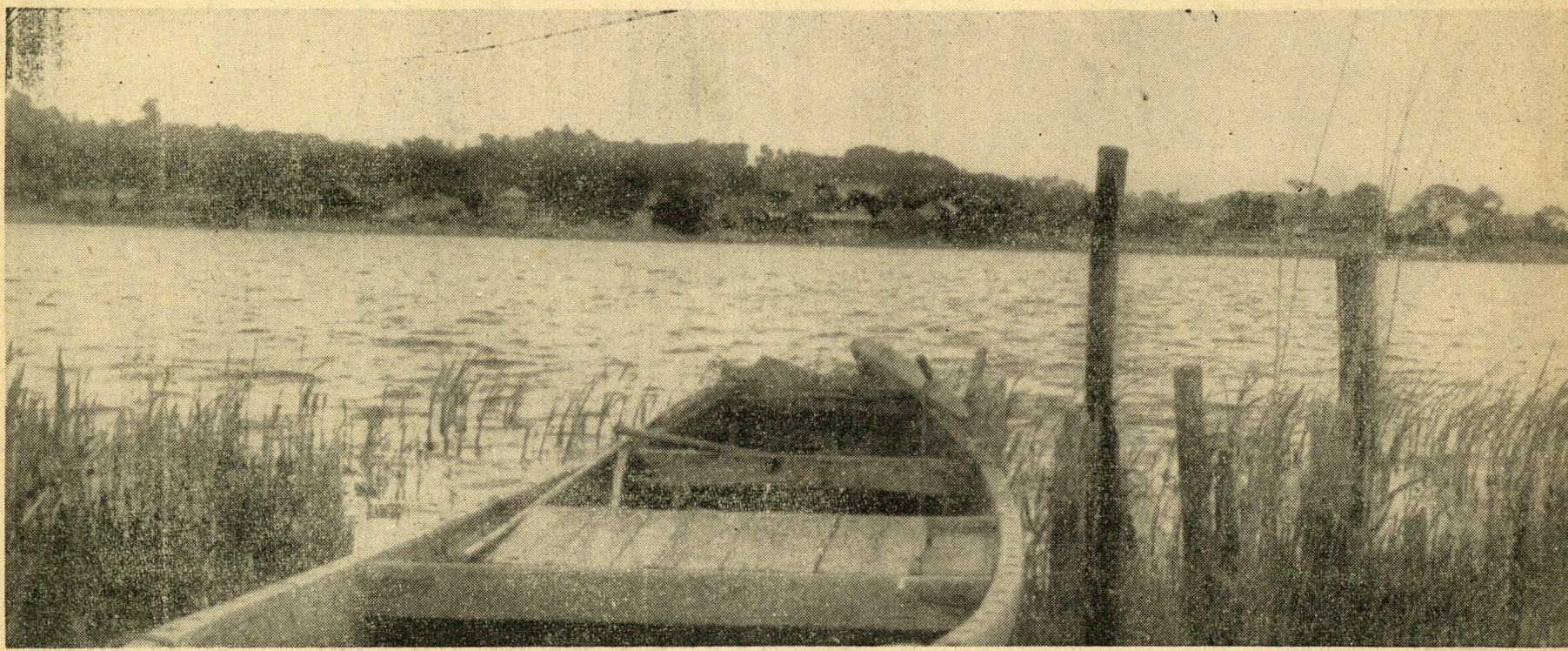
本村の人口

男女計 5,854
6,299
世帯数 2,153
2,241

農業労賃の目安

村農業労働力調整協議会は、春の農作業の賃金目安を次の通り決めた。お知らせしておきます。

- 田植作業 七五〇円
- 田除草作業 五五〇円
- 畑作業 五五〇円
- (たばこ作業は除く)
- 麦刈作業 六五〇円
- 田耕起作業 九〇〇円
- 代かき作業 九〇〇円
- 田植一週作業二五〇〇円
- (反当量)



架橋の見通し明るい・馬渡より札を望む

死亡一時金が支給されます

国民年金保険料

三年以上納付の者に

▽死亡一時金は次の要件に該当したときに支給されます。
①被保険者が死亡したとき
②三年以上保険料納付済みの者
③死亡した者が、老令年金、障害年金、母子年金に該当しない者
④死亡者に遺族があること

▽死亡一時金の額
別表のように死亡者の保険料納付済期間に応じて、定額の支給をすることになっています。

▽支給の調整
死亡一時金が支給される場合、死亡者の妻または子に対して、寡婦年金または遺児年金が支給されるわけですが、一つの保険料積立金からすでに一つの年金が支給されたうえは、再び同じ積立金からは支給されないとになります。

遺児年金と死亡一時金が同時に受給権が発生した場合はいずれか一方の給付を選んで給付を受け他方の給付は消滅することになります。

時効が近づく

福祉年金

▽5年にならうとしている福祉年金
おとしよりや身体障害者あるいは母子家庭のみなさんから暮らしている福祉年金は、昭和三十四年十一月から支給されていますが、やがて5年にならうとしています。

ところが、この福祉年金をもらう資格があるのに、まだ請求しないためにもらっていない人がいます。すなわち、この福祉年金をもらう資格があるのに、まだ請求しないためにもらっていない人がいます。

▽5年請求しないともえなくなる福祉年金
福祉年金は、つぎのようなもろう資格ができたときから5年間請求しないと時効によって永久にもらえなくなります。

△満七〇才に達したとき
老令福祉年金

なっております。

このほか、死亡一時金を支給する母、準母年金について、死亡一時金の受給権の同時発生がある場合があるが、母子、準母子年金は、妻あるいは祖母、姉などが自身で保険料を支払っている場合にその対象となるものであるから、保険料を支出した者が異なり、したがって二つの給付はそのまま支給されることとなります。

【別表】

保険料納付済期間	死亡一時金額
3年～5年	5,000円
5年～10年	7,000円
10年～15年	14,000円
15年～20年	21,000円
20年～25年	28,000円
25年～30年	36,000円
30年～35年	44,000円
35年以上	52,000円

要小学校的の進路

学校長 藤崎久男

若葉繁る初夏となり、稲田の上を渡る微風が、私達を一層快く頬を撫でてくれる候となりました。吾が要小も、昨年二月四教室、暗建の校舎竣工によって、一応子供達の学習環境の整備も終り、いよいよ学習に専念し得る状態となりました。改めて村当局やPTAの御厚意に感謝の意を表したいと存じます。

さて、こうした御厚意に報いるためにも、十四名の教職員は丸一となつて、児童達の学力向上と品性の陶冶等のため、真剣な努力を傾注するよう鋭意奮力を傾注している次第です。

- 一、児童の学力向上を期すること
- 二、児童の徳性の涵養と情操教育を深化すること
- 三、科学技術教育の充実をはかること
- 四、図書館教育の振興を期すること
- 五、創意工夫による特色ある学校経営の推進を期すること

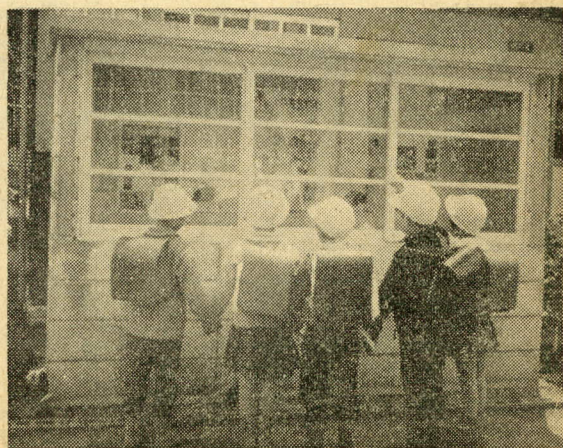
子どもの自主性を

のばすために

家庭教育対策研究部

子ども達が、親や教師から、おどされたり、あやされたり勉強するのではなく、自分の力で勉強していく子どもになるためには、幼少の時から、自主的な人間に育てなければなりません。そこで子どもが自主的に学習をするためには、どんなことに留意したらよいか述べてみます。

「人に頼らず、自分の力でやりとげよう」ということをしっかりと意識し、自分の力でやろうとする。そして、自分の力でやろうとすると、必ずしもうまくいかない。そんなとき、親や教師は、子どもが自分でやろうとする姿勢を、たとえうまくいなくても、認めてあげることが大切です。



掲示板を見る子供達

下級生へのプレゼント

担任 伊東五十野

最近学校の環境作りが盛んになり、PTAの奉仕その他によって効果的に構成され、これによって学んだ子供達は、豊富な経験を、そのありがたさをしみじみと感じ取り、同時にいろいろな知識を得ている。

実験地区の完結発表も終って、卒業式を前にした三月の初め、世話になった学校や下級生へのプレゼントにと、昭和三十八年度卒業生が、掲示板を作つて寄附することにした。それがこのほど完成した。

この掲示板は、卒業生九十名が費用を出しあい総工費約一万五千円のコンクリートブロック建てで、暫く置校舎の前で、ひととき目をひく近代的なもの。さっそく学校児童会の掲示係を中心に掲示教育に利用された。

